



イエス団報

Jesus band news

2009 / 3 / 31

11

再刊11号

- 2009年はイエス団創設100周年
- イエス団、新ロゴマークで発進
- 賀川記念館 再建に向けてスタート
- 人物探訪 理事長 木村量好さん
- 施設訪問 ぶどうの木保育園
- クローズアップ 企画委員会

発行：2009年3月31日

発行者：木村量好

編集・発行：

社会福祉法人・学校法人 イエス団

〒651-0076

兵庫県神戸市中央区吾妻通5-2-20

TEL：078-221-9565

FAX：078-221-9566

<http://www.jesusband.jp>

2009年はイエス団創設100周年



豊彦が苦しい生活を強いられている人たちと共に生きるために拠点を移した1909年の翌年に撮影された写真。子どもを肩車している賀川豊彦は晴れ着を着ている。手前にカメラマンの影が写っている。



100年前も地域福祉の中心に子どもたちがいた。子どもたちを預かり、散髪や入浴を行なったほか、馬島医師の協力を得て友愛救済診療所を開き、子どもをはじめとする地域の人の健康を支えた。

今から100年前の1909年、イエス団の前身である救霊団の活動が賀川豊彦によって始められました。今、私たちイエス団は、多くの仲間たちとともに100年間の歩みを振り返り、また100年先を見つめながら、取り組むべき課題に邁進していきたいと考えています。

「イエス団報」では、私たちの先達がさまざまな課題にどのように取り組んできたのかを、少しずつ紹介をしたいと思います。次回をお楽しみに。





イエス団、新ロゴマークで発進

イエス団は創設100周年を迎えるにあたり、いくつかの新たな取り組みを始めます。襟を正す意味を込めて、新たにロゴマークをつくり活用することになりました。

新ロゴマークの、

Jは、Jesus、イエス・キリストを象徴し、
イエスに倣って生きる群れ、「イエス団」を表わす手書きの環が、イエスを取り囲んでいます。
環は、「イエス団」の団結の宣言でもあります。
すなわち、私たちが人と人とのネットワークを、
もっとも大切にしていることを表わしています。

2009年イエス団の新たな取り組み

1. イエス団の使命（ミッション）の確認と浸透

私たちは1999年に制定したイエス団憲章を踏まえて、2009年にふさわしいイエス団の使命を確認しようと、新しいミッションステートメントをつくっています。私たちが何を継承し、新たに何をしなければならないのか、イエス団全体で一緒に考えていきます。また、それぞれの地域に与えられた取り組みを、各施設ごとにイエス団の使命と照らし合わせていきます。

2. 賀川記念館の再建（神戸三ノ宮）

100年前から続けられている賀川記念館の働きを見直し、これからの100年にふさわしい取り組みのために賀川記念館を再構築しています。新賀川記念館には、ミュージアムやカフェをはじめとする新たな試みが盛りだくさん。その内容を少しずつですが、「イエス団報」でみなさんに紹介していく予定です。（次頁参照）なお、賀川記念館事業は、賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクトの一つともなっています。

3. 乳児院・幼児院（児童養護施設）の新設（東大阪）



東大阪の生駒山の麓に、乳児院と幼児院の設置を準備中です。

イエス団の従来の施設は、開拓者が心血をそそいだ取り組みの中で設立されたものがほとんどでした。しかし、今回の乳児院と幼児院は、イエス団の中に開設準備委員会をつくり、イエス団全体のプロジェクトとしてつくろうとしています。これは、初めての試みです。

イエス団は子どもからお年寄りまで、また、障がいを持つ人や苦しんでいる人たちの、一人ひとりの生活を大切にしています。乳児院と幼児院の設立は、もっとも大切な生活すべてと向き合う取り組みです。現在、2010年4月の開院を目指して、設計などの具体的な準備を進めています。

覚えて、お祈りください。

4. 賀川豊彦献身100年記念事業の推進

賀川豊彦献身100年記念事業は、イエス団だけの取り組みではありません。兵庫県や神戸市という行政、共栄火災やオリジン電気商事などの企業、コープこうべや学校や教会も一緒にテーブルについて、事業を推進しています。東京では東京プロジェクトが、関西では神戸プロジェクトが組織されています。その大きな取り組みもお伝えしなければなりません。今回はイエス団独自のプログラムのご紹介です。実は、先にご紹介した「イエス団の使命（ミッション）の確認と浸透」「賀川記念館の再建」「乳児院・幼児院の新設」の3つは、イエス団の賀川豊彦献身100年記念事業として進められています。加えて、もう一つは2010年の1月に予定をしている、賀川豊彦献身100年記念イエス団大集会です。各施設の主任さんなどが集まって実行委員会をつくり準備を進めます。実行委員会にでかける主任さんや施設長を、みなさんも支えてください。



賀川記念館 再建に向けてスタート



昨年2008年8月31日、賀川記念館の閉館式が催されました。写真はそのときのものです。下の写真は、欠席された方もいらっしゃいますが、社会福祉法人イエス団（左）と学校法人イエス団（右）の役員の方々です。



現在、敷地は更地となり、2009年2月20日に新賀川記念館の起工式が執り行なわれました。新年度には新賀川記念館開設準備委員会が発足し、イエス団全体の取り組みとして賀川記念館事業を推進していきます。



人物探訪 理事長 木村量好さん



木村量好

きむら かずよし

1932年4月29日生まれ

同志社大学神学部卒業

木村量好先生の歩みは、1958年大阪・四貫島の吉田源治郎先生の元で始まりました。淳子夫人と結婚直後から6年間身を置いた四貫島で、地域活動に根ざした伝道という人生の指針が方向づけられた、と木村先生は言います。

「英語、絵画、ダンスなど、思いつくままに若者が求めていることをやってみました。今と違って身近な所に娯楽がない時代でしたから、そういう教室を開くことは、教会に若者を惹きつけるのに有効だったのです」

絵画が得意だった木村先生は、教室で教えるほかにも、毎週の週報の表紙を描き、絵具などの高価な画材費は、小川秀一先生が出してくださったそうです。

「私とキリスト教との出会いは、敗戦後希望を見出せない状態にいるときに、徳島・小松島の小学校に賀川豊彦先生が講演に来られたときのことです。その後徳島市の常三島で開拓伝道をしておられた小川先生の教会に導かれて受洗しました」

牧師になる決心をして同志社大学に学び、前述の大阪・四貫島教会と友隣館（1924年に吉田源治郎が中心となって始めたセツルメント。四貫島友隣館の前身）、天使保育園（前身は、1927年に開設された天使保育学校）で活動されました。

温和な笑顔が印象的な木村先生ですが、その半生は行政との闘いに明け暮れた、と言います。

「まず第一に、劣悪な保育環境の改善がありました。始めた当時は0歳児8人に対して保育者が1人しかいなかったのです。そんな状況のときに万が一、火事が起こったら、子供を助け出せますか？」と私は行政に訴えたのです。今はそれが3対1までになりました」

「幼保セミナーも26年目になります。幼稚園と保育園を分けて考えることに、縦割り行政の矛盾を感じて始めた活動です。1989年に教育要領の改訂があって、だいぶ歩み寄りが見られます」

保育環境のこと一つとっても、木村先生は闘うことで権利を勝ち取ってきました。必要に応じてアイディアを出し、実行する。その姿は、一般が思い浮かべる「教会の奥に引っ込んで説教だけをする牧師」とは程多し、「行動する伝道師」そのものです。

「四貫島時代に伝道師に必要な三バンという技術を学びました。すなわち看板、ガリ版、算盤のことで、週報づくり、集会の企画、広報、運営、決算から統計づくりまで、実践する力を身につけたのです」

このとき培われた力が、その後の木村先生の働きに大いに発揮されています。

その後、京都・伏見で保育園をつくることを決意して（桃陵保育園）、四貫島を離れ、伏見区桃山町の世光教会の副牧師に赴任します。

保育園をつくるに際し、借金の担保物件がなく苦慮していることを、当時イエス団の常務であった武内勝先生に相談したところ、「祈ることだ」と即座に答えが返ってきたといいます。

「武内先生からは、私も賀川先生と歩いていて何度も『武内君、ここで祈ろう』と電柱の陰で祈った。君も祈ることだ、と言われていました。そして実際に祈ることで、多くの困難が取り除かれていきました」

「実社会とつながって行動すること」と「祈ること」、この2つを両輪に堅実な歩みを進めてきた木村先生はその後、新興住宅地として開発された大阪との県境である京都・八幡市で開拓伝道を始めます。その、ぶどうの木保育園と八幡ぶどうの木教会も、2005年に30周年を迎えました。

賀川豊彦について、次代に伝えたいことをうかがってみました。「賀川先生は、愛と奉仕と相互扶助に生きた人です。それに改革精神が加わります。私は賀川先生と実際に話した内容よりも、捨て身で生きた姿を覚えているんです。言葉だけでは、伝わらないこともあるということですね。言ったことが、その人の心に響いていくためには、受け止める人の心に土壌が育っている必要があります。まずは、おのおのが責任を持ってしっかりと立つ。その姿を見せていくことでしか、次代に精神を継承していくのは難しいかもしれません」

木村先生の有言実行の生き方は、賀川豊彦が一番伝えたかったことかもしれません。

インタビューの第1回目にあたる今回から、10の質問をインタビューにさせていただきました。

- 1 好きな言葉／献身
- 2 嫌いな言葉／——（うーん、すぐには出ないなあ）
- 3 好きな音／鳥の声
- 4 嫌いな音／騒音
- 5 好きな手触り／柔らかいもの
- 6 嫌いな手触り／ネトネトしたもの
- 7 牧師にならなかったら何になる？／料理人
- 8 なりたくない職業／政治家
- 9 好きな色／藍色
- 10 天国で神様になんて言われたい？／よくやったねえ

施設訪問

ぶどうの木保育園



京都ブロック 社会福祉法人イエス団 ぶどうの木保育園
 〒614-8362 京都府八幡市男山美桜 6-5
 TEL：075-982-9013
 FAX：075-982-9013
 E-mail：budounoki@jesusband.jp



今から30年前、大阪万博が終わり高度経済成長がピークに向かいつつある時代、第二次ベビーブームと女性の社会進出の増加が重なって、保育園の需要は高まる一方でした。初代園長の安田茂世さんが30周年の記念史に書いておられますが、竹藪だらけで人もまばらだった八幡の地にも、団地が建てられ、ニュータウンや宅地開発が進められるようになりました。

京都・伏見で桃陵保育園を運営していた木村量好先生は、新興住宅での開拓伝道を志し、この地に一粒の麦を蒔きました。

「いきなりよそ者が来ても信用されません。ですから社会福祉法人イエス団に連なるといことは、非常に助けになりました。地域に根ざして開拓伝道をするためには、その地域の人が望むものをかなえることも大切です、信用ある仕事をすることも必要。そう考えて、保育園を併設することになりました」

木村先生のこうした考えのもと、1975年4月19日に、ぶどうの木保育園は開園しました。牧師館に人がいるように、との配慮から教会員の井上明夫妻に住み込んでもらったそうです。

「私は世光教会と桃陵保育園があるので、ぶどうの木へは通って来ていました。それで井上さんご夫妻に住み込んでいただいたのですが、市に目的外使用だといわれて闘ったことも思い出します」

ぶどうの木保育園の一番の特色は、礼拝堂を多目的ホールにしているところです。田中忠雄画伯の絵を元にした、荊冠の彫刻とぶどうのステンドグラスを日々見ながら、子どもたちは遊んだり、お話を聞いたりしているのです。ここの子どもたちにとっては、礼拝堂が近寄り難い場所ではなく、生活の中心。まさに神に見守られて成長しているようでした。このホールは地域の人にも開放され、ヨーロッパによく見られる町のコミュニティセンターとしての役割も果たしているそうです。ただ、教会としてウィークデイに利用できないということもあり、将来的には独立させたいという思いもあるといいます。

安田園長に続き小池敬子園長を経て、現在は3代目の木村耕園長が、初めての男性園長として活躍しています。木村園長は木村量好先生のご子息。失礼ながら「やりにくいことはありませんか」と聞いたところ、保育園で生まれ育ったことが自分にとってはプラスだった、という答えが戻ってきました。

「昔から子どもが好きで好きでたまらなく、この仕事は天職のように思っています。妻も保育者として働いていますし、子どもも育てているので、保育者の立場も親の立場もわかる施設長、という意識でいます」

と言う木村園長。自分が子どもを預ける側だったときには、要
 jbn11-8につづく



ぶどうの木保育園は、本物に触れることにこだわるんだ



ぶどうの木保育園はご覧のとおり、斜面を活かした広い園庭を持ち、水の流れも、今は住人がいないのですが、動物たちのお家もあります。なんといっても、見晴らしもよい4階建ての冒険小屋が自慢。庭の手入れが行き届いて、気持ちの良い空間が維持されています。生憎、取材当日は雨が降っていて、子どもたちが外で遊ぶ姿は見るできませんでした。

トイレのパーテーションは手すり付き。全面にスノコが敷いてあります。

ぶどうの木保育園の建築は、地域施設研究所所長の松井俊さんのデザインです。松井さんには現在、東大阪の乳児院の設計も担当していただいています。遊び心たっぷりの松井さん、東大阪もよろしくお願いしますね。



ぶどうの木保育園のスタッフ



玄関を入ったところに全スタッフの顔写真が並んでいます。親御さんたちにとっても、初めて訪れた私たちにも優しい心遣いですね。その上にはイエス団憲章が掲げられていました。施設の中に入ると、暖かい空気に包まれます。木の床と家具。「家」を感じさせるしつらえ。何よりも普通の装いをしたスタッフの笑顔が素敵です。左が黒一点、園長の木村耕さん。イエス団の企画委員も努めています。





Jbn11-5 からつづく

望はすべて保育者にぶつけていた、でも逆の立場になったとき、保育者がしんどいと思うことで取り除けるものは取り除いて保育に専念できる環境を整えたい、といいます。

「昔は新年の準備のために保育を休んでいたんです。でも、そのために仕事を休まなくてはならない親御さんもいるんだ、ということに気づいたら、安易に休めませんよね。また、定年は60歳ですが、ここでは20歳から80歳という実に幅広い年齢層の保育者が働いています。子どもを育てるのに、若い女性だけ、という通常の社会ではあり得ない環境はやはり普通じゃありませんから」

木村、安田、小池各先生が築いてきた歴史に、肌で感じる時代の要請を加味していけたらいい、という木村園長が最近特に意識しているのは、「命、心、人権」です。

毎週金曜日にはホールで幼児全体の合同礼拝をしています、聖書の内容だけではなく、アイヌ民族の生き方や沖縄に対する人権侵害にも触れてきました。その延長で、5歳児の沖縄平和キャンプを5年前から続けています。

「沖縄のガンジーと呼ばれている阿波根昌鴻（あはごん しょうこう）さんがつくった〈わびあいの里ヌチドゥタカラの家〉で戦争当時の品に触れたり、伊江島の戦いを継承している謝花悦子（じゃはな えつこ）さんからお話を聞いたりしています。5歳児を泊まりがけで沖縄に連れて行くなんて、正気じゃない、と言われていましたが、この経験が子どもたちにしっかり根づいているだけでなく、下の子どもたちに憧れとなっていることが、保育者として大きな驚きでした」

確かに、4歳児より下の子どもたちは、お姉さんお兄さんの経験に畏敬の念を持っていて、次は自分たちの番だ、と心待ちにしています。それが双方に良い刺激になって育ち合っているのです。





最後に、ホールで子供たちが見せた集中力と力強い歌声についてうかがいました。

「気持ちを逸らすような話をしない、ということもあります。子どもが自分のこととして受け止められる話をする事で、集中力は育てることができます。そのためには、実体験を増やしていく必要があります。集中力も腹の底から声を出して歌えるということも、うちが保育の柱にしている〈礼拝〉〈表現〉〈散歩〉〈食〉の成果ではないでしょうか。

しかし、何よりも保育者自身が落ちついたことが原因かもしれません。子どもは大人の鏡。大人が安心して働くことで、子どもも安心してそばにいられるのですから」

地域の要望に応じて歩んできたぶどうの木保育園が、30年を超え、しっかり根づいたことは、保護者の方々からの感謝の気持ちが込められた2代目冒険小屋を見てもわかるでしょう。兄弟が、また、ここで育った子どもが親になって、ぶどうの房のようにつながっているそうです。



礼拝堂の荊冠が吊り下げられた所は、外観ではとんがり屋根になっています。その礼拝堂には舞台演奏用だった小さなパイプオルガンや、納骨堂ならぬ納骨キャビネットが備えられています。八幡ぶどうの木教会の牧師は千葉宣義先生。





2008年8月の企画委員全体会議。左から時計回りに、木村耕委員、石原正彦委員、瀬戸治雄委員、品川卓也委員、谷口浩美委員、齋藤浩敏委員（馬見労働保育園）、嶋田良介委員、升崎丈夫委員、中田一夫法人本部事務局長、田村三佳子委員、後ろ向きですが黒田信雄委員長。

クローズアップ 企画委員会

企画委員会は理事会や経営会議から与えられた課題について取り組む組織です。イエス団の施設長15名が委員となり会議を開いています。2008年度は、次の七つを課題にしてチームに分かれて検討、6回の全体会議で協議を深め、経営会議に答申しました。

1. イエス団ロゴマークの検討

ロゴマークについて、使用に当たってのガイドラインの作成を谷口浩美委員（聖浄保育園）と田村三佳子委員（甲子園二葉幼稚園）が分担し、ガイドライン（案）を作りました。

2. 経費削減策の研究

各施設が必要経費として処理しているものの内、法人全体で一括契約（購入）することで、各施設の負担が減るものがないか？について引き続き調査、検討し提案することとし石原正彦委員（豊島神愛館）が分担しましたが、メンバー変更があり2008年度は結果を出せませんでした。

3. 職員給与規程標準化の研究

イエス団の職員の給与は各施設の成り立ちや所轄が異なることから現在のところ法人内で一律ではありません。各施設ごとの給与体系を同じものにしてしまうことは非常に困難を伴うのが現状です。そこで企画委員会とは別に俸給検討委員会を設け、黒田信雄委員長（光の子保育園）を中心に職員の給与体系の標準化について研究が進められています。まずは手始めに施設長給与規程の策定が現在進められています。

4. 就労規則標準化の検討

各施設の就業規則収集。標準化に向けての規則の整理を木村耕委員（ぶどうの木保育園）が分担して取り組みましたが、2009年度に引き継ぐことになりました。

5. 事業計画書フォームの検討

各業種に対応した事業計画書のモデルフォームを作り、より実効性のある（読んで理解し易い）フォームについて調査・検討し、提案することを目的として嶋田良介委員（天使保育園）瀬戸治雄委員（豊島ナオミ荘）が分担しました。2009年度事業計画書から運用できるフォームが出来、実際に新しいフォームによって事業計画が作成されました。

6. 事業報告書・添付書類の検討

事業報告書・会計決算に当たっての添付書類について、検討し、2008年度決算の際、各施設からの提出書類の統一を図る。と同時に、会計基準の変更に伴う経理規程の改訂作業を品川卓也委員（坂出育愛館）・升崎丈夫委員（愛之園保育園）が取り組み、すでに経営会議では審議され2月の理事会で議案として取り上げられ承認されました。

7. 法人ミッション（使命）の浸透

「イエス団」の精神を正しく受け継ぐ手段について検討する。田村三佳子委員・宇野豊委員（桃陵保育園）が理念委員会と合同で取り組みました。施設長会議の研修内容も同時に検討しました。



黒田信雄委員長

たくさんの施設をかかえる法人だけに課題は多岐にわたっています。各施設がより良い運営ができるよう知恵を出し合う会議体として企画委員会があります。各委員はそれぞれの施設の運営をしながらの会議出席で大変ではありますが、精力的に取り組んでくださいました。そのご努力に感謝です。引き続き、2009年度もたくさんの課題をもらっています。少しずつではありますが、委員の皆さんと取り組みたいと考えています。

（文責・黒田信雄企画委員会委員長）